

① 不測事態への沈着冷静な対応

今年度の記念日参加も、今般の北部方面隊とそれに引き続く中部方面隊の記念日参加をもって概ね終了した。流石に記念日の梯子は疲れる。次年度は精選した方が良いでしょうが、社用で参加する訳であり、そうも行かないかも知れぬ。

さて、今年度の記念日参加での感動的な場面があったので紹介したい。

ニセコ連峰と(後方)羊蹄山に抱かれた山紫水明の高砂台に駐屯する倶知安駐屯地の記念日に参加した。云うまでもなく、小生が連隊長兼ねて駐屯地司令として勤務した地である。往時に比較して所在人員も少なくなっており、連隊もなく、記念日の規模としては最小の部類に属するであろう。

さて式典も終了し、訓練展示となった。展示内容は一般的な模擬戦闘訓練であり、それ自体は格別珍しいものではない。椿事が起きたのは、空中からの偵察潜入のためにレンジャー隊員をヘリコプターから降下させようとした時である。今まで相当数この種状況を見てきたが、あろうことか、降下隊員 4 名中一名の隊員のカラビナがロープに絡まったのであろうか、空中で停止してしまっただけである。

さて、どのように処置するかなと興味津々と見守って居たのであるが、へりは周囲に気を配りつつ停止した隊員が地上に接するまで降下し、先行降下した隊員が近づきカラビナを外して救助(?)し、4名の隊員とへりは夫々次の行動に移行したのである。

へりのパイロットも降下隊員も焦ることなく淡々と不測事態を適切に切り抜けており、これは所謂ヤラセではないかと確認したのであるが、そうではなかったらしい。

とすれば、レンジャー隊員とヘリパイの絶妙な連携動作や4名の隊員の行動は素晴らしいという他ない。小生としては、今は無き精強第29連隊の伝統を引き継ぐ隊員たちは流石と感動した次第である。29連隊が廃止されて10年余りであるが、倶知安健児のDNAは脈々として現在の倶知安駐屯地の隊員諸官に受け継がれていることを感じた次第である。勿論、何故カラビナが絡まったのか、有り得べからざる事態がなぜ惹起したのかの原因究明と対策は万全に為されなければならないが・・・

② 伝統は健在なり！

機会を得てと言うべきか、中隊長としては参加するのが当然であるとの義務感ではなく、時の戦友に会いたさで云う方が適切なのだろう。函館28連隊3中隊長としての勤務期間は長い方の一年半ではあったが、極めて充実した勤務であった。当時の中隊の諸官等に会った途端に中隊長になりきっているのだから不思議だ。顔も名前も当時の出来事をもって話す度に蘇るから不思議である。さて、当時の中隊員諸官が全て退官している訳ではない。夫々大きく成長し、中隊や連隊のキーパーソンとなっている当時の若い隊員諸官の話、現役中隊長・小隊長諸官から現況を聞くにつけ、3中隊の伝統は今尚健在であるということ、特にその精強性の源泉である陸曹諸官の団結力・中隊への忠誠心・帰属意識の強さは聊かも変わっていないことを痛感した。

部隊というのは不思議な生き物である。

③ 公道を疾駆する戦車

西部方面隊の記念日では何と言っても駐屯地前の公道を使用しての観閲行進であろう。

多言するよりは、写真を見て貰った方が解り易いであろう。我が同期が撮影したものである。

